

栃木県塩谷郡氏家町方言のアスペクト

篠木 れい子

はじめに

1. 調査対象地：氏家町は栃木県の概ね中央部に位置し、東は那須郡南那須町および喜連川町、西は鬼怒川を挟んで河内郡上河内村および河内町、北は荒川を挟んで矢板市および塩谷町、南は高根沢町と接している。宇都宮市からおよそ20Kmほど北にあり、関東平野の北限に位置する。国道4号線が町を縦断している。人口は26,000人、世帯数は7751である（平成6年4月現在）。中心とした話者の出身地阿久津は氏家町の南に位置する。主な産業は農業であるが専業農家は少ない。
2. 調査年月日：1994年 3月19日、4月 7日
3. 話者：石岡 光雄さん 大正15年 1月30日生（68歳） 阿久津（南部）
渡辺 弘さん 大正 3年 4月 1日生（80歳） 狭間田（北部）
砂岡 礼子さん 昭和44年 5月21日生（24歳） 桜野 （中部）
4. 調査者・調査場所：篠木れい子・新井小枝子、於氏家町ミュージアムの学習室
5. 調査方法・調査時の様子：調査表に基づき尋ねる方法。

青年層の調査をまず実施してから、高年層の二人の調査を行った。一人は氏家町の南部に位置する阿久津地区の出身であり一人はと北部に位置する狭間田地区の出身であるが、アスペクトに関しては地域による相異は認められなかった。話者の石岡さん、渡辺さんは調査者とは以前からの付き合いがあり、また氏家町ミュージアムとも深い関係にあるかたがたあって、始終なごやかな雰囲気の中で調査は行われた。

6. 表記方法：与えられや調査項目の番号・順番に従って記述した。高年層の資料を中心に記述した。実際に発話された順に番号を付した。当方言はか行・た行の有声化や連母音の融合現象が認められるので、（ ）には共通語訳ではなく、当方言そのままを直訳したものを記した。直訳では理解されにくい場合については、直訳の後ろに＝を付して共通語訳を記した。ただし、説明の箇所の（ ）は共通語訳である。青年層のみに現れた表現については、[青]を付して記述した。なお、当方言は無型アクセントであるので、アクセントの記述は省略した。

II. 調査結果

- 1 （昔は）よく行ったものだね ①イギイギ シタツケナー（行き行きしたっけなあ）
／②ヨグ イツタケナー（よく行ったけなあ）／△③イツタツタナー（行ったったなあ）
*①の動詞連用形畳語による反復表現は青年層では稀である。高年層は①・②とも用いるが、昔は①の表現の方が多かった。②のヨグは必須条件に近い。回想は高・青年層と

もに～ケあるいは～タツタで表現される。

- 2 (あのころは) おもしろかったなあ (1)エガッタナー (よかったなあ) /△(2)オモシロカッタナー (おもしろかったなあ)
* (1)は青年層では稀である。青年層は専ら(2)による。(2)は高年層にとってはきわめて共通語的であり、日常生活ではほとんど用いないといつてよい。
- 3 (もうちょっとで) 落ちるところだった (1)モー チットデ オッコットゴダツタ (もうちょっとでおこるとこだった) / (2)オッコジッドゴダツタ (おっこちるとこだった)
* 高・青年層ともに～トゴ (青年層:～トコ) で表現する。なお、動詞「落ちる」は、高年層では(1)の方 (オッコル) を多用し、青年層では(2) (オッコジル～オッコチル) を多用する。
- 4 (今にも) 落ちそうだよ (1)ホラ オッコット (ほらおこるよ) / (2)ハー オッコット (はあおこるよ) / (3)オッコジット (おっこちるよ)
- 5 (財布を) 落として (1)ナグシチャツテ (なくしちゃって) / (2)オドシチャツテ (落としちゃって)
* 高年層は(1)を、青年層は(2)を多く用いる。いずれも～チャツテ (～てしまって) が用いられている。
- 6 困っている (1)ナジョ スペー (なじょすべい=どうしよう) / (2)ナジョシトラ エーガナー (なじょしたらよいかなあ=どうしたらよいかなあ) / (3)ナジョシッパー (なじょするべい=どうしよう) / (4)ナジョシトラ ヨガンペー (なじょしたらよかんべい=どうしたらよだろう)
[青] オトシチャツタングワネー (落としちゃったんだわねえ)
* 「困っている」表現は、当方言ではもっぱら「どうしたらよいか (わからない)」、「どうしよう」などによってなされている。心境の継続をあえて表現しようとするれば、次のようになる。()ナジョスペートモツテル (どうしようと思っている)
- 7 (一本の蠟燭が今にも) 消えそうだよ (1)ケーツチャウド (消えちゃうぞ) / (2)キエツト (消えるぞ)
* 将然の告知表現も～チャウ (てしまう) あるいはいわゆる動詞の未来形キエルによってなされるのが一般的である。
- 8 (今) 消えようとする (1)ケーチャウド (消えちゃうぞ)
[青] ケール ケール (消える消える)
* 今まさに消えようとする場合にも7と同じ表現でなされる。
- 9 (完全に) 消えた (1)ケーツチャツタ (消えちゃった) / (2)キエツチャツタ (消えちゃった)
* 高年層は(1)を、青年層は(2)を多用。いずれも～チャツタ (～てしまった) によって表

現されている。

- 10 (すでに) 消えていたよ ①トックニ ケーテダ (とっくに消えてた) / ②キエチャ ッ
テタ (消えちゃった)

* 既然の表現は～テダ (～ていた) あるいは～チャッテタ (～しまっていた) によっ
てなされている。

- 11 (何本もの蝋燭が順に) 消え始めた ①ケーハジメダ (消え始めた)
[青] キエダシタ (消え出した)

- 12 (何本もの蝋燭が次々) 消えていくなあ ①ケーテグナー (消えて行くなあ) / ②
キエデグナー (消えて行くなあ)

* ①②は「消える」の音声が異なるだけで、いずれも～テグ (～ていく) である。

- 13 (何本もの蝋燭が順に) 消えているよ ①カタツパジカラ ケーテグヨ (かたっぱ
しから消えてくよ) / ②キエテグヨ (消えてくよ)

- 14 (何本もの蝋燭が全部) 消えているよ ①ミンナ ケーチャッテルヨ (みんな消え
ちゃってるよ)。

* 結果は～チャッテル (～しまっている) によって表現される。

- 15 (何本もの蝋燭の火を次々) 消しているよ ①ケシテット (消してるよ) / ②ケシ
テルヨ (消しているよ)

* 進行は～テル (ている) で表現される。

- 16 (もう全部) 消しているか ①ミンナ ケーテッガ (みんな消えてるか)
[青] ケシテッカ (消してるか) / ケシテアッカ (消してあるか)

* 高年層は他動詞「消す」を用いた表現はいくら誘導しても出てこなかった。

- 17 (今にも桜が) 散りそうだ ①チリソーダ

* 将然の告知には現れなかった～ソーダ (～そうだ) が用いられている。

- 18 (ちらほらと) 散り始めた ①チリカゲダ (散りかけた) / ②チリダシタ (散りだ
した)

* ①は高年層のみ。継続動詞の動作の始発は「～始めた」にはよらず、高年層は「～か
けた」あるいは「～出した」によって、青年層は「～出した」によってなされるのが一
般的である。

- 19 (今現に) 散っている ①チッテル (散ってる)

- 20 (桜の木がすっかり) 散っている ①スッカリ ネグナッチャッタ (すっかり無く
なっちゃった) / △②チッチャッタ (散っちゃった)

* ①は高年層が多用、青年層は用いない。①②ともに～チャッタ (～しまった) であ
る。

- 21 (地面一面に) 散っている ①チッチャッテル (散っちゃてる) / ②チッチャッタ
(散っちゃった)

[青] チッテル

*20で現れなかった～チャッテル(～てしまっている)が、ここでは用いられる。

22 今にも降りそうだ ①フッテキソーダ(降ってきそうだ) / ②アー モヨーシテキタナー(ああ催してきたなあ)

*高年層では②が、青年層では①が一般的な表現である。なお、②は過去の表現には用いられない。

23 (あの時は今にも雨が)降りそうだったなあ ①フッテキソーダッタナー。(降ってきそうだった) / ②フルミデダッタナー(降るみたいだったなあ)。

24 (あの時はもう実際に雨が)降っていたよ ①フッテダヨ(降ってたよ) / ②フッタッタナー(降ったなあ) / ③フッテタツケナー(降ってたっけなあ)

[青] フッテタツケナー(降ってたっけなあ)

*青年層は②は用いない。

25 (あの時はやがて夜が)明けようとしていたよ ①アゲソダッタヨ(明けそうだったよ) / △②アゲデキソーダッタヨ(明けてきそうだったよ)

26 (来年の今ごろは家を)建てている(最中) ①タデデッペ(建ててるべい=建てているだろう)

27 (来年の今ごろはすでに)建てている ①ライネンワ オヤシテル(来年はおやしてる=終わらせている) / ②ウジ デキテッカラ(家はできてるから) / ③ウジ オワッテッカラ(家終わってるから)

[青] タテテット オモーカラ(建ててると思うから)

*高年層においては、いかに誘導しても動詞「建てる」を用いた結果の表現は得られなかった。

28 (あの家はよく)磨いてある ①ミガギアガッテルヨ(磨きあがってるよ) / ②ピカピカニ シテル(ピカピカにしてる) / △③ミガイデアルヨ(磨いてあるよ)

*「～てある」を用いたの表現は誘導によって出てきたが、その誘導にはかなりの時間を要した。青年層では③はごく自然に用いられている。なお、動詞によっては～テアルは日常的に用いられる。

29 (隣の犬が)鳴いている ①ナイデル(鳴いてる)

30 (隣の子が)泣いている ①ナイデル(泣いてる)

*前項29との区別はない。

31 (こどもたちが)喧嘩している ①ケンカ シデル(喧嘩してる)

32 (家に)いるかなあ ①ウジニ エッカナー(家にいるかなあ)

33 (()さん)いるか ①イダゲー(いたかい)。

[青] イッケ(いるかい)

*高年層は過去形で、青年層は過去形ではなく専ら現在形で表現している。

- 34 (ああ) いるよ (1)イッゾ (いるぞ) / (2)イット (いるよ)
 *高年層においても33に対する返事は過去形によらず現在形で表現される。
- 35 (そういう人も) いるよ (1)イッペ (いるべい=いるだろう) / (2)イルヨー (いるよ)
- 36 (あなたは今何を) していたか (1)ナジ シテダー (なじしてた)
- 37 (私は今金魚を) 見ていたよ (1)ミデダー (見てた)
- 38 (金魚が今にも) 死にそうだ (1)クタバリソーダ (くたばりそうだ) / (2)オッチニソーダ (おっ死にそうだ) / (3)シニソーダ / (4)プロプロ シデッカラ (プロプロよしてるから) / (5)クタバッチマウゾ (くたばっちまうぞ)
 *①②③は～ソーダ(～そうだ)、⑤は～チマウ(～てしまう)。高年層では④によって、今にも死にそうな状態を表現することが多い。青年層は③が一般的。
- 39 (やっぱり金魚は) 死んでいたよ (1)ウギチャック (浮きちゃった=浮いてしまった) / (2)シンチャック (死んじゃった) / (3)シンジマッタ (死にしまった)
 *高年層は①が、青年層は②・③が一般的な表現である。終結の表現はいずれも「～てしまった」である。なお、高年層では人間の場合にはナグレタ(亡くなった)と表現する。
- 40 読み始めていた (1)ヨミカゲデダ (読みかけた)
 [青] ヨミハジメテタ (読みはじめてた)
- 41 読み始めたところへ(～た) (1)ヨミカゲダドゴニ (読みかけたところに)
 *高年層では動作の始発点も始発後まもなくの継続も～カゲル(かける)で表現される。一方、青年層は前者が「～始める」、後者は「～かける」で表現仕分けている。
- 42 着くと同時に～した (1)ウジー ツクナリ デンワガ ナッタ (家に着くなり電話が鳴った)
 [青] ツイタラ (着いたら) / ツイテスグ (着いてすぐ)
- 43 着くと同時に～してくれ (1)ツクナリ デンワ ヨゴセー (家に着くなり電話よこせ)
 [青] ツイタラ (着いたら) / ツイタラ スグ (着いたらすぐ)
 *42と同様、「～と同時に」は～ナリで表現される。青年層は43の場合には①は用いない。
- 44 鳴り続けている (1)ナリップパシダ (鳴りっぱなしだ)
- 45 (先生は今何を) しているか (1)センセーサマ ナニ ヤッテンデスカー (先生様何やってるですか)
 [青] ナサッテイマスカ (なさっていますか)
- 46 好きだ (1)アノ センセー スキダー (あの先生好きだあ)
- 47 見られているのも (1)ミラレデンノニー イネムリー シテル (見られてるのに居

眠りしてる)

48 (今、運動会が) ある (1)イマ ウンドーカイガ マッサガリダヨ (今運動会が真っ盛りだよ) / (2)イマ ウンドーカイ ヤッテル (今運動会やってる)

* (1)は高年層のみ。なお、高・青年層ともに「ある」を用いた表現はない。

49 (降らなくて) よかったよ (1)エガッタナー (よかったなあ)

50 (先生がこっちへ) 来つつある (1)センセー クット (先生来るよ) / (2)センセー コラレット (先生来られるよ) / (3)センセサマ メールド (先生様見えるよ)

* 青年層はミエル (見える) を専ら用いる。

51 (犬がこっちへ) 来つつある (1)イヌガ クッド (犬が来るよ)

52 似ている (1)ニデル (似てる)

53 (一週間も前から遊びに) 来ている (1)キテル

54 (昔から) 苦労していない (1)クローシテネー (苦労してない) / (2)ホネオウタゴド アンメー (骨折ったことあるまい) / (3)ヒトノ メシ クッタゴド ネー (他人の飯を食ったことない)

* 高年層では(2)(3)の表現が日常的である。青年層では(1)が一般的である。

55 (今はあまり) 苦労しないでいる (1)イマワ ラグダワー (今は楽だわあ) / (2)ホゲホゲシテル (ホゲホゲしてる) / (3)クロー シテネー (苦労してない)

* 高年層は(1)・(2)が、青年層は(3)が一般的な表現である。

56 ~は売っているが、~は売っていない (1)タバゴワ ウッテルキット キルモンワ ウッテネー (煙草は売ってるけれど着る物は売ってない)

57 (昔からタバコを) 売っている (1)ムガシッカラ タバゴ アギナッテル (昔から煙草商ってる) / (2)ウッテル (売ってる)

* 青年層は(2)のみ。

58 (今、大売り出しで衣料品を) 売っている (1)ウッテル (売ってる)

59 (もう三回) 来ている (1)キテル (来てる)

60 (いつも) 来ている (1)イズモ キテル (いつも来てる) / (2)サイサイ キテル (再々来てる) / (3)キーキー シテル (来来してる)

* 青年層は(1)のみ。(1)(2)の副詞は必須条件に近い。

61 (昔はいつも) 来ていた (1)キーキー シタ (来来した) / (2)イズモ キテダ (いつも来てた) / (3)イズモ キテダッケ (来てたっけ)

* 青年層は(2)(3)のみ。

62 (前に一度) 行っている (1)エッカイ エッテル (一回行ってる) / (2)エッカイ エッタゴドガ アル (一回行ったことがある)

63 先に行っておいてほしい (1)サギ イッテデー (先行ってて) / (2)サギー イットイデ (先に行っといて)

- 64 待っていないさい (1)クッカラ マッテロ (来るから待ってろ) / (2)マッテデナー (待っててなあ)
 *「～おきなさい」に該当する表現は現れない。ただし、動詞によってはそれに当たる表現～トグが現れる。例えば、シトゲ (しておけ)、カイトゲ (書いておけ)。「する」や「書く」は動作を終えて置くことができるが、64の場合の「待つ」動作は持続させていなければならないので、動作を終えて置くことができないからであると考えられる。
- 65 (外に) 待たせてあるよ (1)ソドニ マダシテアングガラ (外に待たしてあるだから) / (2)ソトニ マダシトイダ (外に待たしといた)
 *～テアル (～てある) あるいは～トグ (～ておく) が用いられる。64の場合と異なり～トグが用いられるのは、「待つ」動作を他の人にさせておくからであると考えられる。
- 66 食べておいておくれ (1)クッテロ (食ってろ) / (2)タベデロ (食べてろ) / (3)タベチャッテロ (食べちゃってろ) / (3)タベドゲー (食べとけ) / (4)クッチャトゲ (食っちゃとけ)
 [青] タベテテ (食べてて)
 *～テル (～ている) と～トグ (～ておく) の命令形によって表現される。
- 67 (昔と) 違っている (1)ムガシト ヒトアジ チガウ (昔と一味違う) / (2)ムガシト チガッテンナー (昔と違ってるなあ)
- 68 (昔は今のと) 違っていた (1)ズイブン チガッテダ (随分違ってた)
- 69 (毎日梅干しを) 食べている (1)ウメボシ クッテル (梅干し食ってる) / (2)タベデル (食べてる)
- 70 (毎朝) している (1)マイアサ タイソー ヤッテル (毎朝体操やってる) / (2)シテル (してる)
- 71 気をつけていて (～した) (1)ショッチュー キーツケデッケド アンバーガ ワルグナック (しょっちゅう気を付けてるけどあんばいが悪くなった) / (2)キーツケデデ (気を付けてて)
- 72 行ったまま～ (1)イックッキリ (行ったきり) / (2)イックマンマ (行ったまんま)
- 73 ～しながら (1)ハナシー シーシー ハシル (話しいしい走る) / (2)ハナシ シガテラ ハシル (話しがてら走る)
- 74 ～の途中で～する (1)イギガゲニ ヨッテクル (行きがけに寄ってくる)
- 75 ～の途中で～した (1)イゲ トギニ デアッタ (行く時に出会った) / (2)イギガゲニ デアッタ (行きがけに出会った)
- 76 ～の途中で止めて～した (1)ホンヨミ ヤメデ デガゲダ (本読み止めて出掛けた)
 [青] ヨミカケテ (読みかけて)
- 77 ～したばかりだ (1)キノー ヨンダバッカシダ (昨日読んだばかりだ) / (2)ヨンダドゴダ (読んだとこだ)

*動詞「する」の「したばかりだ」の場合には、シタバッカシの他に、以下に示すようにシタマンマダ（したまんまだ）が認められる。ただし、高年層のみ。

○キノー ソーシギ シタマンマダモノ（昨日葬式したまんまだもの＝したばかりだもの）

- 78 無くなっている (1)メガネガ ネグナッチャッタ（眼鏡が無くなっちゃった）／(2)ネグナッテル（無くなってる）

[青] ナクナッチャッタ（無くなっちゃった）

- 79 無くなるぞ (1)ネグナルゾ（無くなるぞ）／(2)ネグナッチャウゾ（無くなっちゃうぞ）／(3)ナグナッチャウゾ（無くなっちゃうぞ）

*②の方を用いることが多い。青年層は③のみ。ただし、音声はナクナッチャウゾ。いずれも～チャウ（～てしまう）である。

- 80 掛けておいた帽子 (1)カゲドイダ ポーシ ドゴイ カダズゲダー（掛けといた帽子どこへ片付けたあ）／(2)ヒッカゲドイダ ポーシ（ひっ掛けといた帽子）

*動詞「掛ける」はヒッカゲルが一般的である。いずれも～トグ（～ておく）で表現されている。

- 81 並んだ本 (1)コゴニ ナランデル ホン（ここに並んでる本）／(2)ナラパッテルホン（並ばってる本＝並んでいる本）

*～タ（過去）を含む表現は、誘導しても得られなかった。

- 82 並べた本 (1)コゴニ ナラベデル ホン（ここに並べてる本）／(2)ナラベダ ホン（並べた本）

[青] ナラベテアル ホン（並べてある本）

*高年層では～テアルの表現は得られなかった。

- 83 ～しておこうか (1)イマノ ウジニ ヨンドグガー（今のうちに読んどくかあ）

- 84 やってあるか (1)ヤッテアッガー（やってあるかあ）／(2)オヤシテアンノガー（おやしてあるのかあ）／(3)ヤッタガー（やったかあ）

*高年層は②・③を、青年層は①を用いることが多い。ただし、青年層の音声はヤッテアルカである。

- 85 壊している (1)マタ オモジャ ボッコシテル（また玩具ぼっこしてる）

[青] コワシテル（壊してる）

- 86 壊れている (1)ハー ボッコレデル（はあぼっこれてる）

[青] コワレッチャッテル（壊れちゃってる）

- 87 壊されている (1)コレマデ ボッコサレタ（これまでぼっこされた）／△(2)ボッコサレテル（ぼっこされてる）

[青] コワサレテル（壊されてる）

- 88 のけてある (1)アブネーガラ ドゲドグ（危ないからどけとく）／(2)ドゲデアンダ

(どけてあるだ)

89 書き終わった (1)ヤット カギオヤシタ (やっと書きおやした=書き終わらせた)

[青]カキオワッタ (書き終わった) / カキアゲタ (書き上げた)

*高年層は自動詞による表現は誘導しても得られなかった。

90 書いてしまいなさい (1)ケーッチメー (書きちまえ) / ②カイチャイナ (書きちゃいな)

91 書いてしまう (1)カイチマウ (書きちまう) / ②カイチャウ (書きちゃう)

92 書いてみた (1)カイデミダ (書いてみた)

93 (孫は今)入院している (1)ニューエン シテンダー (入院してるだあ)

94 (弟も今)入院しているそうだ (1)ニューエン シテルラシー (入院してるらしい) / ②ニューイン シテルミデーダ (入院してるみたいだ)

95 (きっと)よくなるよ (1)ジギ エグナッカラ (じき良くなるから) / ②ジギ ヨグナッカラ (じきよくなるから) / ③ジキ ヨグナッテクッカラ (じき良くなってくるから)

96 (だんだん)よくなるよ (1)ヒマシニ ヨグナッカラ (日増しによくなるから) / ②ヒマシニ ヨグナッテクッカラ (日増しによくなってくるから)

[青]ヨクナッテイクカラ (良くなっていくから)

*青年層は①②より[青]に記した表現を多用する。青年層の話者の内省によれば、～テイクを用いた遠のき表現は他人の場合に、～テクルを用いた近づきの表現は自分の場合に用いるのが表現としてふさわしいという。ちなみに、97は～テクルで表現されている。

97 歳とるとね (1)トシ トット (歳とると) / ②トシ トッテクット ナオリガ クデー (歳とってくると治りがくどい)

*高年層は②の表現の方を多く用いる。高年層では96で述べた青年層のような～テグ(ていく)と～テクル(～てくる)の微妙な使い分けはないようで、いずれの場合も～テクルの表現が現れている。

98 なおらなくなるよ (1)ナオリガ クデー (治りがくどい) / ②ナオラナクナッテクル (治らなくなってくる)

*青年層は①は用いない。

99 (1)(犬が)怪我したので ~ヨッタは用いない。

イヌガ ケガー シタガラ (犬が怪我したから) のように言う。

(2)(こどもが)怪我したので ~ヨッタは用いない。

コドモガ ケガ シタガラ (子供が怪我したから) のように言う。

(3)(お父さんが)怪我したので ~ヨッタは用いない。

オトーサンガ ケガ シタガラ (お父さんが怪我したから) のように言う。

(4) (雨が) 降ってきたので ～ヨッタは用いない。

アメガ フツテ キタガラ (雨が降ってきたから) のように言う。

100 (1) 「雨が降りつつある」 C 「すでに盛んに降り続けている、降っている最中である」状態。青年層はB 「今、ぼつぼつ降り始めた」状態。

(2) 「貯金が増えつつある」 B 「すでに現にどんどん増えている」状態。

(3) 「貯金を増やしつつある」 C 「すでに現にかなり増やしている最中」の状態。青年層は自分の場合にはB 「増やそうとして少し貯金をし始めた」状態で、他人の場合には高年層と同じCの状態。

* 当方言においては、「～つつある」は日常の言語生活において用いられていない。

Ⅲ. 総括 (まとめ)

氏家町方言のアスペクを表す形式には次のものがある。

- ・～テル (～ている)、～テアル (～てある)
- ・～テグ (～ていく)、～テクル (～てくる)
- ・～チャウ (～てしまう)、～トグ (～て置く)、～オヤス (終わらせる)、～カゲル (～かける)、～ダス (～出す)、～ハジメル (～始める)

～テルは共通語の「～ている」と同様、動詞の意義によって進行相あるいは已然相を表す。

～テアルは結果相を表すが、当方言の日常の言語生活では～テアルは余り用いられない傾向が認められる。例えば、窓が開いている部屋に入った際に、「窓が開けてある」という表現は余りなされず、「窓が開いている」の表現、すなわち「マドガ アイテル」が多く現れるようである。

～テグと～テクルはいずれも進行相を表すが、青年層では自分以外の場合は遠のきの～テグを、自分の場合は近づきのクルを用いる傾向が認められる。

～チャウ、～オヤス、～トグは終結相を表す。

～カゲル、～ダス、～ハジメルは進行相の始発を表す。ただし、～ハジメルは高年層ではあまり用いられない。なお、進行相の始発点はこれらの表現に～トゴ (ところ) を付すことによって表現される。

共通語にみられる進行相を表す「～つつある」や継続相を表す「～続ける」に該当する表現は得られず、～テルや～パナシなどの表現が用いられている。

(しのぎ れいこ 群馬県立女子大学)